

令和7年3月 定例教育委員会 会議録

1 日 時 令和7年3月24日(月) 13:30～

2 場 所 鳥取市役所本庁舎6階 第3会議室

3 出席者

教育長 : 河井 登志夫
委員 : 藤井 喜臣
委員 : 前田 哲雄
委員 : 谷口 なおこ
委員 : 中井 英子

〔事務局〕

副教育長: 徳高 雄一郎
次長兼教育総務課長: 山下 宣之
次長兼学校教育課長: 浅見 康陽
生涯学習・スポーツ課長: 須崎 ひとみ
文化財課長: 佐々木 孝文
学校保健給食課長: 山根 ちはる
中央図書館館長: 長本 次郎
総合教育センター所長: 中村 礼子
学校教育課参事兼指導係長: 米澤 武昌
学校教育課参事: 平戸 由美
教育総務課長補佐: 小清水 晃子

〔傍聴者〕 なし

4 会議次第

○行事報告及び行事予定について

〔教育総務課〕 P. 3

【説明・協議事項】

- (1) 気高地域新設統合小学校整備について 〔教育総務課〕 当日配布
- (2) 鳥取市立小学校、中学校及び義務教育学校における補助教材費徴収規則の一部改正について 〔学校教育課〕 P. 5
- (3) 鳥取市学校給食費徴収規則の一部改正について 〔学校保健給食課〕 P. 10

【報告事項】

- (1) 2月定例市議会一般質問等教育長・副教育長答弁要旨について 〔各課〕 当日配布
- (2) 令和7年度4月職員人事異動等について 〔教育総務課〕 当日配布
- (3) 鳥取マラソン2025の開催について 〔生涯学習・スポーツ課〕 P. 14
- (4) 一人一台端末を活用した児童生徒の心身の健康観察「今日の自分予報」について 総合教育センター〕 P. 16

【その他】

(1) 次期定例教育委員会の開催について

[4月] 令和7年4月28日(月) 13:30～ 鳥取市役所本庁舎6階 第4会議室

[5月] 令和7年5月28日(水) 13:30～ 鳥取市役所本庁舎6階 第4会議室

(2) 鳥取県市町村教育委員会研究協議会

第1回理事会 令和7年4月16日(水) 11:30～12:30 白兔会館

5 会議概要

○行事報告及び行事予定について

教育総務課長(資料に基づき説明する。)

【説明・協議事項】

(1) 気高地域新設統合小学校整備について

教育総務課長(資料に基づき説明する。)

【質問】

(藤井委員)

統合準備委員会というのは地元の方やPTAの方で構成されていますよね。

(教育総務課長)

はい。

(藤井委員)

開校までだいぶ期間がありますが、PTAの方はやはり変わられますよね。

(教育総務課長)

はい。そこは役や人が変わっても引き継いでいただくようお願いをしております。

(藤井委員)

当たり前だから書いていないかもしれませんが、エレベーターはつけますよね。

(教育総務課長)

3ページの防災を意識した安全・安心な学校づくりのところに記載しております。今の鳥取県のまちづくり条例の適用になりますので、学校には全てエレベーターを新築改築の場合は必ず設置することになっておりますので、エレベーターはつきます。

(藤井委員)

逢坂小学校はこれより前に一緒になるということを検討されているのですか。

(教育総務課長)

はい、先行編入を検討しています。

(藤井委員)

たとえば、8年度くらいにはできるんでしょうか。

(教育総務課長)

何年度というのは今の段階では言えません。

(藤井委員)

でも開校より前にということですよ。

(教育総務課長)

はい。先日、統合準備委員会の前の日に、逢坂小学校の先行編入で、一番の調整事項が通学路と通学方法でありまして、それについては今、気高循環バスというのが逢坂のあたりを通っておりまして、それを活用していただくということを想定しています。それについての保護者への説明とアンケートを実施ということで、17日に逢坂小学校のPTAの保護者の方、未就学児の保護者の方に集まっておいて話をさせていただいたところです。そこが固まれば先行編入の形が見えてきますので、今調整しているところです。

(藤井委員)

駅の北側から通学するのはどうなるのでしょうか。跨線橋が駅を過ぎてからはありますが、手前につけるという話は今はないのでしょうか。

(教育総務課長)

JRとの兼ね合いもあるので、なかなかすぐに実現ができるような話ではありません。

(藤井委員)

つけてくださいという話は出てくる可能性はありますよね。

(教育総務課長)

それは地元からの要望として出てくる可能性はありますが、現状ではなかなか実現が難しいのでまずはソフト対策からになります。

(藤井委員)

お金さえかければ、つけようと思ったらつけれるんですよ。

(教育総務課長)

JR次第です。

(藤井委員)

かけるのは市になりますよね。

(教育総務課長)

JRとの協議次第です。跨線橋自体は市のもので今評価がBということで、かなり良い評価になっています。

(藤井委員)

つけるのはこちらが要望してJRが承諾すればになりますが、上からものが落ちるとか色々な理由で嫌うんだと思います。これからですね。

(教育総務課長)

はい、これからです。

(中井委員)

13年から開校ということで、統合が決まったのはいつ頃ですか。

(教育総務課長)

令和5年の4月に教育委員会が候補地として決定しました。それまでに統合するというのは統合準備委員会で議論をされました。

(中井委員)

統合した方がいいという話が出てから10年くらいかかるんですね。

(教育総務課長)

最初に逢坂の小学校を考える会から統合の要望書が出てきました。そこから宝木、瑞穂、浜村小学校区からも同様の要望書が出てきて、次に統合準備委員会を開いて統合してほしいという要望が出てきました。そこから校区審議会が開かれて、そこでも統合するべきだという答申が出て、気高の関係者、地域の方を交えた会議が開かれて、既存の学校ではなく JR 浜村南側がいいだろうというご意見を出されました。4校の統合なので、それぞれ皆さんの意見が一致した上でのお話になると時間がかかります。なおかつ新しい土地を取得して新しい学校ということになるとさらに時間がかかってくるということです。

(2) 鳥取市立小学校、中学校及び義務教育学校における補助教材費徴収規則の一部改正について
学校保健給食課長（資料に基づき説明する。）

(3) 鳥取市学校給食費徴収規則の一部改正について
学校保健給食課長（資料に基づき説明する。）

【報告事項】

(1) 2月定例市議会一般質問等教育長・副教育長答弁要旨について
副教育長（資料に基づき説明する。）

【質問】

(谷口委員)

学校の体育館のエアコンについて、はっきりつけるという返事ができなかったということで、小学生の保護者の方々が夏のプールはすぐ中止になるし、体育館に空調がないので体育の授業もできないことも多く学校で運動する機会が減っている、子どもが運動しない、子どもの運動能力が低下しているということを心配されていました。外に出るのが危険と言われている中で、外で遊びなさいとも言えません。エアコンをつけるなり、エアコンの効いている部屋で何かできるように、早めに対応していただければなという思いを保護者として持っております。

(副教育長)

空調について、中学校の特別教室、小学校の特別教室と順番に計画しておりまして、運動不足の件も非常に重大なことでございますので、状況を見ながら進めてまいります。

(教育総務課長)

体育館の空調ということになると大規模な空間を冷やすということで、断熱も必要になってきます。また、室外機等の機械をどこに設置するのか、電気の容量が足りるのか、足りなければ電気工事も必要になってくるというようなことを考えると、断熱を含めてエアコンを設置しようとしたら1校につき1億近くかかってきます。今申し上げたような、どういう場所にどういったものを置くのか、電気の工事が必要なのか等の調査をして、設計して、それから工事をするとなると1つの学校の整備をするだけでもかなりの時間、手間とコストがかかります。国は補助金を出しますが、補

助金だけで100%賄ってできるわけではありません。そこには地方債を充てて、それでも足りない部分は一般財源で充当するというようなこともあるので議会の答弁でもさせていただきましたが、現在気高の新設統合校の整備、学校給食センター、コミュニティセンターの整備といったような大規模な事業がたくさんある中で、起債についても、市で年間これぐらいまでという枠があるので、そういった全体の事業も踏まえながら計画的に整備をしていかないとはいけません。このような中で今おっしゃったような子どもたちのことも教育委員会としても考えていきながら、これからどういったやり方で進めていくかは計画をしていかなければならないと考えています。

(藤井委員)

話が戻りますが、気高の統合小学校の体育館にエアコンをつけるかどうかというのは、まだ話はされていないのでしょうか。

(教育総務課長)

それも基本計画の中で、検討していきたいと考えています。

(藤井委員)

公立と私立の施設整備では、私立は整備が進んでいますね。借金してエアコンをつけているんですよ。公立では起債を起こして、エアコンをつけているので、どこかで踏み切らないといけないのかもしれないですね。13年度開校となると、エアコンのない学校というのはまずいかもしれません。途中からつけたら手間もコストもかかるので、やるのであれば最初からやったほうがいいですよ。

(教育総務課長)

おっしゃるとおり、途中からやるとコストがかかります。それも踏まえた上で、検討したいと思います。

(藤井委員)

1つ思い切ってやると色々と声が上がってきて、つけざるをえなくなるかもしれませんね。統合計画があるのでなかなか難しいでしょうね。

(教育総務課長)

今後どういう風に統合が進むかによって、どこからエアコンをつけていくのか検討しないといけません。

(藤井委員)

たとえば昔はエレベーターがないのが当たり前でしたが、今は新しい学校はエレベーターがあるのが当たり前というイメージがあります。プールがなくなる代わりにエアコンをつけたらいいのではと個人的には思います。

(教育総務課長)

全体の需要のバランス踏まえながら、どこからしていくのかも含めて検討していきたいです。

(前田委員)

不登校の増加について、近年はコロナ禍の影響もあって学校を休むことに対して抵抗感が低下しています。欠席にならないのであればフリースクールに行けば良いと、安易にフリースクールを選択するということもあるのではないかと思います。抵抗感が低下したために不登校が増えているというような状況は鳥取市でも顕著なものなのでしょうか。

(総合教育センター所長)

抵抗感を感じている不登校の児童生徒の中の割合というものは、明確にデータとしてはありません。分類としては何年か前から変わってはおらず、一番多いのは複合的な要因です。学校に取った調査によると、不登校の児童生徒に必要な支援として近年増えているのは心理的・医療的ケア、家庭的支援の割合です。

(前田委員)

従来の不登校対応の色々な手立てももちろんですが、学校自体に魅力がないと、フリースクールの方が面白い、欠席にならないのであればフリースクールにいけばいいと安易な選択をされてしまいます。あまり勉強のことを言われなし、抵抗もないしと。そういうのが増えていくのは怖いなという感じがしながら読ませていただきました。最終的に保護者が休んでフリースクールに行けばいいと言うんだろうと思います。今の小中学生が親になったときに、学校は面白い、学校でしか味わえない色々な達成感や充実感があると、そういうものを学校教育の中で感じさせていかないと。学校って面白くもないし、魅力がないと思っている大人になると、そういった割合はすごく上がってくるんじゃないかと思いました。学校ってやはりまずは魅力だなと、魅力を感じられる体験をした上で卒業させていくことが大事だなと思っています。

(副教育長)

それは私もすごく感じていまして、コロナが収まって、今こそ各学校がそれぞれの特色を出して、頑張らないといけないときですが、働き方改革とかスリム化の考え方とかこういうことをコントロールできていない状況も心配しております。本当に今こそ、学校が特色を出していくときだと改めて再認識いたしました。ありがとうございます。

(2) 令和7年度4月職員人事異動等について
教育総務課長（資料に基づき説明する。）

(3) 鳥取マラソン2025の開催について
生涯学習・スポーツ課長（資料に基づき説明する。）

【質問】

(中井委員)

天気を心配しましたが、当日はそこまで雨もなく良かったと思います。エントリー数は2024年と比べてどうですか。

(生涯学習・スポーツ課長)
2024年と比べて300人程度増えています

(中井委員)
県外の方の割合はどうか。宿泊施設は足りていたのでしょうか。

(生涯学習・スポーツ課長)
県外の方もそうですし、海外の方も結構おられました。3369人のエントリーで、海外からは43名、鳥取県からが1359人ですので、2000人近くは県外からの参加です。

(4) 一人一台端末を活用した児童生徒の心身の健康観察「今日の自分予報」について
総合教育センター所長（資料に基づき説明する。）

【質問】

(中井委員)

文科省の教育委員研修に行ったときに、スマイルプロジェクトをすごく褒めていただき、参考にしたいと言ってもらえました。相談に行くときに相談室に行くのを見られるのを嫌がる子がいると思いますが、どうしておられるのかと聞かれて分からなかったのですが、どういうふうに相談をしているのでしょうか。

(総合教育センター所長)

今回、子どもたちが相談があるとしたときに、どの先生に相談したらいいかを最初は入れ込む形も作っていたんですが、小学校1年生から中学校3年生まで使えるものを想定しているので、それを入れ込むとなかなか運用が難しいというのがあって入れませんでした。基本的に学校とか学年の発達段階に応じて、学年全員の先生で共有して、担任の先生以外の先生が、例えば養護の先生や学年団の先生が声をかけてやった方が気兼ねなく相談活動ができる場合や、あるいは小学校の低学年のように担任の先生が中心になって子どもたちに声をかけた方がいい場合がありますので、発達段階に応じて、学校で弾力的に運用できるようにしています。相談室、校内サポート教室の有無や、教育相談の主要教員が級外にいる場合と担任が兼ねている場合等があります。それぞれの学校の体制によっても使い方が変わってくるかと思いますが、データは複数の教職員が共有できるので、子どもが言ってくるのを待つのではなく、先生から声をかけてやれるというのが良さの1つでもあります。

(藤井委員)

実際どのくらいの割合で相談がありますか。

(総合教育センター所長)

もし毎日何十人も相談があったら対応が大変になるのではと心配をしていたのですが、実際にモデル校でやってみますと、小学校も中学校もそんなに変わりません。大体学年で1日平均2、3人ぐらいの割合です。そんなに高くはありませんが、ただ小学校と中学校で時期によっても違うのかなと想定しています。そのあたりは全校でやってみないと分からないところもあるのですが、想定していたようなたくさん相談が殺到するっていう状況はありませんでした。自由記述のところですが、これは学年が上がるにつれて少なくなります。打ち込むと打ち込んでいるのが周りに分かってしまうので、小学生だと算数の宿題が難しくて困りましたなどの記述がありますが、中学生だと記述は少ない傾向にあります。

(藤井委員)

これを入れたことによって、入れないときに比べて相談があるという手応えみたいなものはありますか。

(総合教育センター所長)

数としては多くはないですが、これをきっかけにいじめが発見・認知ができて、学校が早期に対応できたということが、月例報告で小学校、中学校と複数件ありました。私たちの手ごたえとしては、1人でも2人でも、これがあることでいじめの早期対応につながったケースが今年度1年間ありましたので、入れてよかったと思っています。

(藤井委員)

相談しやすい環境がこれによって、整ってきているということですね。自分で言いに行くのは勇気がいりますもんね

(前田委員)

児童生徒は先生がみんな見ているのは知っているのでしょうか。担任の先生だけだと思っているということはないですか。知られたくない先生もいるのではと思います。そういう心配はないのでしょうか。

(総合教育センター所長)

それについても色々な意見がありまして、最初に子どもたちに仕組みを共有してから使っていたくようにしています。

(前田委員)

子どもたちも学年の先生方が見ているということは分かっているわけですね。

(総合教育センター所長)

はい、中学生だとこの先生に相談したいと書く子もいます。

(前田委員)

小学校中学校が同じものを使うというのは少し無理があるのではないかと思います。本当に追い詰められたら、こっそりとだったら1人の先生には言えるというような子もいますよね。気分が悪いと答えていながら相談したいことがない生徒もいると思います。その日1日だけならいいですが、1週間とかそれが続いている生徒がいた場合、ピックアップされるのでしょうか。

(総合教育センター所長)

1日分も見れますし、1ヶ月分の累積のもデータも出てきますので、そういった不自然な回答も見えてきます。不自然な回答から教員が声をかけて子どもの話をよく聞いてみると、いじめ対応につながったというのは小学校より中学校の方がよくあります。

【その他】

(1) 次期定例教育委員会の開催について

〔 4 月〕令和7年4月28日(月) 13:30～ 鳥取市役所本庁舎6階 第4会議室

〔 5 月〕令和7年5月28日(水) 13:30～ 鳥取市役所本庁舎6階 第4会議室

(2) 鳥取県市町村教育委員会研究協議会

第1回理事会 令和7年4月16日(水) 11:30～12:30 白兔会館

14:45 閉会